1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年3月15日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690200102
法人名	特定非営利活動法人こしき風林火山
事業所名	グループホーム多喜人
所在地	鹿児島県薩摩川内市里町里470 (電話) 09969-3-2127
自己評価作成日	平成31年1月10日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成31年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

薩摩半島西方、豊かな自然が残る甕島・里町。その里町の中でも有名な観光名所である武家屋敷通りに当施設がある。
地域特性上、近隣住民は昔からの馴染みの方が多く、外に出れば近隣住民との会話が弾む。また、魚や野菜等の差し入れが多く、地域の中で生活できている実感を持つことができる。そのため、利用者の施設生活での孤立感軽減できると思われる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは里港より車で5分ほどの、閑静な武家屋敷通りの一角に設置されており、周囲は個人住宅が立ち並び、少し離れて小学校や市役所支所、民宿等がある。管理者は自治会やPTAの役員、児童委員などの任につき地域活動にも取り組んでいる。利用者や地域の人々との交流も密に図られており、散歩や買い物時には挨拶や会話を楽しみ、地域の行事(運動会、相撲大会等)や清掃に参加している。日常的に家族や地域の人々の来訪があり、施設見学やボランティアを受け入れ、また、農・水産物を頂くなど、利用者はこれらの交流を楽しみながら平穩に生活している。

管理者及び職員は、利用者の誇りや尊厳を大切にしながら思いや意向の把握に努め、地域密着型サービス事業所としての意義を踏まえた理念に沿って、利用者がその人らしく生きがいのある暮らしとなるような支援に日々取り組んでいる。職員の半数以上が男性であるが、不衛生にならないように清掃など環境整備についても細かに留意している。支援の状況は、「支援経過記録」「バイタルチェック表」等に詳細に記録され、情報を共有してサービスの向上に務めている。

管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションに努め、業務に対する意見や要望、また、職員の個人的事情も把握して、業務の改善やサービスの質の向上に取り組んでいる。離島という地域性から、外部研修の受講が難しい状況の場合もあるため、施設内研修を職員と協力しながら充実させてスキルアップを図っている。勤務シフトには可能な限り本人の意向を反映するなど、働きやすい職場環境の整備に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	施設内で最も目につく場所に掲示しており、職員会議等にて随時共有している。	地域密着型サービス事業所としての理念を定め、ホールに掲示し、職員会議等でケアの振り返りや意見交換を行って共有を図っている。利用者の思いや個性、習慣等に配慮し、その人らしく平穏に生活できるように、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも加入しており、地域行事にも可能な限り参加するようにしている。また、踊り等の訪問もおこなっている。	地域の自治会に加入し役員も担って日頃から関わりを深く行っている。地域の清掃や行事等に参加し、ホーム主催の行事には家族や地域の方々の参加、協力が得られている。家族の面会や散歩時の会話、農・水産物の差し入れは日常的にあり、中学生の職場体験やボランティア等も積極的に受け入れるなど、円滑な交流が図られている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	まだまだ十分ではないが、職員一人ひとりが必要に応じて提供している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員も殆どが馴染みであるため、利用者のことをよく理解されており。自分の家族のように考えていただいている。	家族代表、民生委員、自治会長、消防団、警察署、市担当職員等が参加して定期的開催している。ホームの現況や行事、ヒヤリハットの事例等の報告を行ない、委員からは認知症ケアの質問や地域の高齢者に関する情報などが活発に出されている。会議の中で高齢者福祉や介護保険制度、電話詐欺等についての研修も実施して有意義な会議となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	薩摩川内市役所里支所が近所にあり、各種申請等足を運ぶ機会が多く、その際必要な情報交換をおこなっている。	市担当職員には、日常的に介護保険や各種制度の手続き、また、ケアや施設運営に関する相談や協議を行い、助言、指導をもらいサービスの向上を図っている。市主催の会合や研修会等に積極的に参加し、情報や意見の交換を行って、業務やサービスの改善に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化検討委員会を設置し、身体拘束をおこなわないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止についてはマニュアルを整備し、身体拘束適正化検討委員会が主となって研修の実施や意見交換を行って認識を深め、拘束のないケアに取り組んでいる。昼間は施錠は行わず、利用者の見守りや対話、寄り添いに努めて安定を図っている。不適切な言葉づかいに対しては職員同士で指摘し、意見交換等も行って拘束のない自由な暮らしの支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、虐待を理解し、虐待をおこなわないケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度に触れることが殆どなく、また、学ぶ機会も少ない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申込時は原則本人及びご家族に来園いただき、施設見学、重要事項説明後に記入していただく。入所時にも再度重要事項説明をおこなったうえで契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員会議や朝礼、その他随時意見交換おこなっている。	利用者の想いや意見は日頃の会話や支援の際の表情、動作、サイン等で理解に努め、家族の意見は来訪時や運営推進会議、イベント時、家庭訪問等で把握している。出された意見等は申し送りや支援経過記録等で共有を図り、ケアの向上に活かしており、家族にも電話や来訪時に対応状況の報告を行って理解を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議や随時自宅訪問、電話連絡等にて確認するようにしている。	管理者は、職員との信頼関係の構築に努め、日々のケアの中や申し送り、職員会議時に意見や要望等を聞き取ると共に、必要に応じて個別面談も実施して把握している。出された要望等は全員で協議して業務やケアの向上を図っており、勤務シフト作成も希望を反映させるなど働きやすい職場環境の整備に努めている。離島という環境もあり、外部研修の機会が十分とは言い難いため、毎月、施設内研修を実施するなど工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務に対する姿勢等を評価し、賞与にて反映するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>離島ということもあり、外部研修への参加は限られるため、施設内研修を充実させるよう取り組んでいる。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>島内での研修があった際には同業者との交流を図るようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前訪問が重要であると考え、コミュニケーション等により環境変化や精神的変化の緩和につとめるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込時より継続的に関わり、入所前の自宅訪問や入所後の訪問、電話連絡等で情報収集につとめ、環境整備に配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申込時、必要に応じてその他のサービスの説明も併せておこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活リズムが職員の都合で左右されないように注意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族への状況報告は随時おこなっている。毎月文書による報告や、電話連絡等おこなっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	私物の買い物や理美容等本人の希望がある場合は馴染みの場所でおこなえるよう可能な限り対応している。	入所時に生活歴や地域との交流状況等を聞き取り、馴染みの人や場の情報を共有している。家族や友人の来訪時にはお茶等を配慮し、本人の希望に沿って買い物や一時帰宅、墓参等を家族と連携して支援している。遠方の家族には情報紙で利用者の状況を伝え、手紙や電話の取り次ぎに努める等、関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が自室に閉じこもりきりにならないよう、茶話会やレクリエーション等交流の機会を多く設けるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の状態確認、面会等は随時おこなっている。また、ご家族との関係も継続するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のコミュニケーションの中で本人の希望や意向を確認し、情報共有し、利用者本位につとめている。	日頃の支援の中で利用者の思いや意向の把握に努め、尊厳やプライバシー、習慣等に配慮しながら、その人らしい暮らしを家族と連携して取り組んでいる。全員での活動に加え、意向に沿って音楽やテレビの視聴、ぬり絵、短歌等、個別の支援にも努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の事前訪問を重要視しており、入所までの関わりを通して環境整備に反映するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状を確実に把握、理解し、利用者の生活リズムの把握につとめている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議や各種委員会、サービス担当者会議等において随時検討している。	本人・家族の意向を把握し、主治医やモニタリング時の意見等を基に、介護計画を作成している。計画の内容は支援開始前に利用者や家族に説明して理解を得ており、実施状況は「支援経過記録」「バイタルチェック表」等で共有している。利用者の状態の変動に対しては計画を修正する等、実情に即した計画を作成して改善を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を作成、記入し、情報共有を図るとともに、職員間での申し送り帳を作成、情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者本位の立場となり、利用者の意向が出来る限り反映できるよう配慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当該地域の最大の強みでもある地域とのつながりを大切にし、地域行事への参加等おこなっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医を原則継続し、定期往診等対応していただいている。受診も施設にて対応し、かかりつけ医の変更希望も対応している。	利用者の病歴等を把握し、本人・家族が希望する医療機関での受療を支援しており、訪問診療も実施されている。他科受診については家族や職員が連携して実施し、緊急時には漁船をチャーターして移送する等、状況に合わせた対応を行っている。協力医療機関による健康管理や緊急時の連携の体制も築かれて利用者及び家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>他職種協働につとめ、主治医との連携を図っている。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>利用者の入院は、本土医療機関への入院が多い。入院後は入院医療機関との密な連携、随時の面会等を通し、スムーズな退院、受け入れに配慮している。</p>			
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>利用者本人・ご家族の意向を十分に確認するようにつとめている。</p>	<p>利用開始時に、重度化や終末期のケアに対するホームの方針を説明して理解を得ている。重度化した時点で主治医より病状が伝えられ、家族や関係者が十分話し合っ可能な限り希望に沿った支援に取り組んでおり、これまで数件の看取りを実施している。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時マニュアル等により、慌てることなく適切に対応できるよう、職員会議等で随時確認している。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的な避難訓練をはじめ、その他不定期におこなわれる行政の訓練等にも可能な限り参加するようにしている。</p>	<p>年2回、夜間を含む避難訓練や消防署職員による消火器取扱い等の研修を実施し、行政主催の防災訓練にも参加している。土砂災害警戒区域になっているため土砂災害防止マニュアルに基づく訓練も実施している。スプリンクラーや自動通報装置が設置され、懐中電灯やラジオ、カセットコンロ等を整備し、飲料水や食料品も備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	地域特性上、職員と利用者・ご家族が昔からの知り合いという場合が多い。そのことが利用者・ご家族と馴れ合いになってしまわぬよう、随時確認している。	人格の尊重やプライバシーの確保については研修や事例に基づく意見交換を実施し、また、職員トイレにケアの姿勢を掲示する等、常に認識を深め適切な支援に努めている。利用者の習慣や思いを大切に、尊厳を損ねる対応を行わないように取り組んでおり、居室やトイレ、浴室等もプライバシーが確保される構造になっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意向や希望を確実に把握できるようなコミュニケーションに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムを最大限に守るようにしているものの、職員の都合でリズムが乱れることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	自己決定が困難な利用者については、職員が確認しながらおこなっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生活の中で最も楽しみの1つである食事。その食事を最大限に楽しんでもらえるよう、地元の食材を多く使用し、好き嫌いを把握し、家庭的な食事を提供するようにしている。	利用者の嗜好や摂取制限、形態等を把握し栄養バランスにも配慮しながら、季節感のある食事や、行事食、代替品の提供、弁当持参のミニドライブ、手作りのケーキなど、食事が楽しみなものとなるよう工夫している。食材の下処理や片付け等は利用者も楽しみながら行っている。利用者毎に食事や水分の摂取量を把握し、口腔ケアもプランに沿って支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録表を作成し、食事・水分摂取量を確実に記録・共有している。医療機関やご家族への報告等にも活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全利用者毎食後の口腔ケアの確実な実施、記録をおこなっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表を作成、記録することにより、利用者の排泄パターンの把握につとめ、トイレ誘導等おこなっている。	チェック表で排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄を支援しており、食事や水分の摂取状況に配慮しながら主治医と連携して便秘の予防にも努めている。支援に際しては羞恥心やプライバシーに配慮し、介護用品の工夫や支援方法等を介護計画に反映させて改善に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や食物繊維等の接種、適度な運動等を通し、なるべく緩下剤を使用しないケアにつとめている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日以外にも入浴できる環境を整備し、柔軟な対応をおこなっている。	週2回の入浴を基本としており、排せつの失敗等には即時に清拭や入浴で清潔を保ち、予定外の入浴希望にも柔軟に対応している。好みの温度や時間、入浴剤等に配慮し、個浴でゆっくりと楽しめるように支援しており、入浴後は水分の補給や、皮膚疾患の手当も行なっている。入浴を渋る利用者には無理強いしないで、時間の変更や声掛け等を工夫して、本人の意欲を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	精神面での安定やコミュニケーション等により不安軽減を図り、なるべく安眠できるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を作成しており、種類や効能を記載し、服薬チェックをおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出希望時の柔軟な対応や、日々のレクリエーションの実施、ドライブ等、気分転換への配慮をおこなっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	馴染みの商店や理美容室、近所の商店への同行や自宅訪問等可能な限り対応している。	利用者の外出への意向は、日頃の関わりの中で把握し、天候や健康状態に配慮しながら散歩や買い物、一時帰宅、墓参、美容室等への外出を、家族と協力して支援している。また、地域行事への参加、ミニドライブ等、ホーム全員での外出も実施して利用者の気分転換を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	お小遣い程度のお金を管理している利用者がおられ、私物購入等おこなっている。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	電話や手紙等、柔軟に対応している。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	「匂い」を重要視し、毎日の清掃に取り組んでいる。また、季節感を感じていただけるような装飾品等配慮している。	ホーム全体が明るく余裕ある広さが確保され、ホールには、テーブルセットやテレビ等が利用者の動線や利便性を考慮して配置されている。利用者の作品や写真、活け花が随所に飾られ、周辺の景色からも四季が感じられて落ち着いた雰囲気となっている。清掃や衛生管理が徹底され、空調、臭気等にも配慮して、気持ちよく過ごせる環境の整備に取り組んでいる。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	スペースは広くないものの、ソファやテーブル等を設置し、憩いの場を多く提供できるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室にはなるべく慣れ親しんだ家具等を置いていただくよう対応している。また、希望者には畳敷きも対応している。</p>	<p>居室はフローリングと和室の2種類があり、利用者の心身の状況や好みに配慮している。腰高窓で明るく落ち着いた雰囲気、ベッド、エアコン、タンスが備えてあり、ナースコールも希望者には配置している。利用者は家族写真や使い慣れた家具、寝具、暖簾等を持ち込んで、その人らしい快適な空間となっており、清掃や整理整頓については利用者の意向を確認しながら支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内は全てバリアフリーとなっており、移動がスムーズに安全におこなうことができる環境となっている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない